

Curators in Panic 2

横尾忠則展 学芸員危機2髪？

会期

2026年9月19日(土)―12月27日(日)

開館時間

10:00―18:00

※入場は17:30まで

休館日

月曜日

※ただし9月21日(月・祝)、10月12日(月・祝)、
11月23日(月・祝)は開館、9月24日(木)、
10月13日(火)、11月24日(火)は休館

会場

横尾忠則現代美術館



ポスターデザイン：横尾忠則

展覧会について

2021 年、大規模な個展のために横尾忠則の代表作約 200 点を貸し出してしまった横尾忠則現代美術館の学芸員が、苦肉の策として企画した開き直りの展覧会「Curators in Panic〜横尾忠則展 学芸員危機一髪」は、残された作品の中から学芸員 3 名が「推し」への愛を語るものでした。その続編となる本展は、当館の全コレクションを対象とした学芸員による総選挙です。

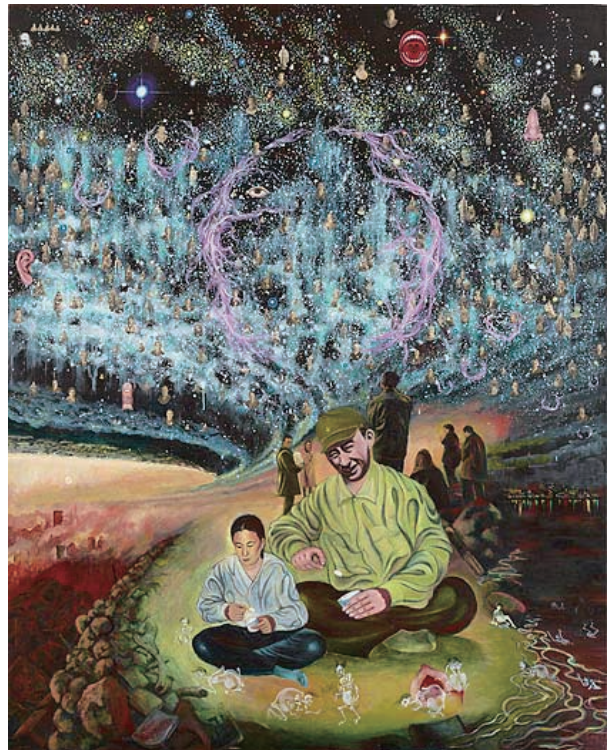
2012 年の開館以来、開催された展覧会は 40 本。これまで様々な切り口で横尾作品に向き合ってきた学芸員のうち、当館と兵庫県立美術館に在籍する 5 名が、作家にも美術史にも忖度することなく、独断と偏見で作品を選出します。個々の思い入れが詰まったユニークなセレクションから、従来の評価軸を超えたヨコオワールドの豊かさをお楽しみください。

《懐かしい靈魂の会合》1998年

上半分には宇宙空間が広がり、満天の星や、五感を表す身体のパーツ、目、耳、鼻、口、指が描かれ、モノクロの人物像が多数コラージュされています。下方には「餓鬼草紙」から引用された餓鬼たち、向かって左に阪神・淡路大震災時の風景、右に夜景、中央奥に箱（遺骨か）を持ちうなだれる人々等、この作品にはいろいろな要素があり、それらが渾然一体となって、見る者に迫ってきます。

中央は幼い横尾さんとお父さんの姿で、並んでアイスクリームを食べています。その上に見える、左方から渦を巻きながら立ち上る青い輝きと円形の「もやもや」が気になるところです。「靈性」の表現でしょうか。[SY]

※選出者：YA, HY, ON, SY
(本展での最多得票作品です)



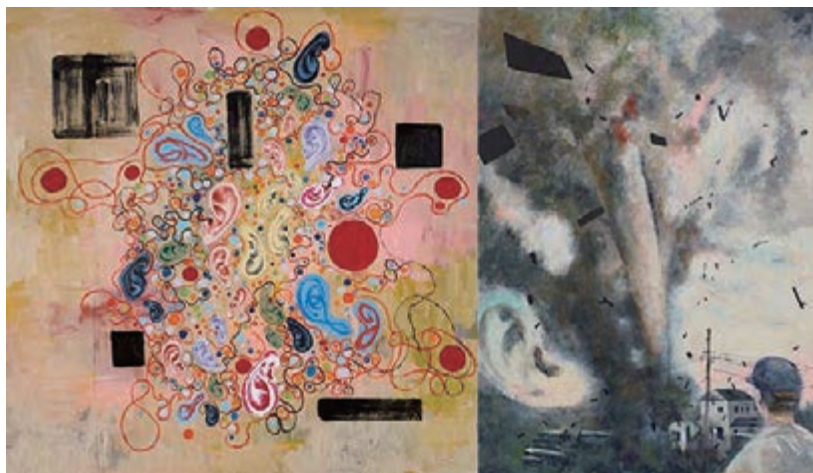
《懐かしい靈魂の会合》1998年
227.5×182.1cm、アクリル、コラージュ・布

《突発性難聴になった日》2019年

2015年9月6日の夜、千葉市で竜巻とみられる突風が発生し、屋根瓦がはがれる、窓ガラスが割れるといった被害が出ました。そのニュースを見ていた横尾さんは突発性難聴を発症し、直接の因果関係は不明ながら、横尾さんの中では竜巻と難聴とが結びつくことになりました。

この作品は二分割され、左右のコントラストが面白いところです。

右側の細長いカンヴァスを見ると、右隅に渦巻く風を見る人がおり、その横の方に、ぼんやりと右耳の形が浮かび上がります。上方には黒い四角がいくつも宙を舞っています。このとき竜巻を目撃した付近の住民が、トタン板が数枚、巻き上げられていくのを見たと言及しており、夜間に起こった強風の恐ろしさを感じられます。



左側の正方形のカンヴァスは、一転して色彩豊かになり、変奏するかのよう形が変化するたくさんの耳、それをとりまく円と線が、リズムカルに配されています。また右側と関連する黒い正方形や長方形が、筆触を生かして描かれ、抽象絵画といってもよい構成になっています。[SY]

※選出者：HY, SY

《突発性難聴になった日》2019年
左：100.0×100.0cm、右：100.0×72.5cm、
油彩、アクリル・布

《二刀流再び》2021年

コロナ禍の自粛ムードのなか、横尾さんが取り組んでいた横尾流「朦朧体」からの1点。中国唐代の風狂僧、寒山と拾得の二人組から出発し、変幻自在なバリエーションを経て、宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘シーンへと変貌しています。いうまでもなく、横尾さんの現存最古の作品である、5歳頃の絵本『宮本武蔵』の模写が下敷きになっています。

筆者にとってこの作品の魅力は、モチーフの面白さもさることながら、絵画空間の美しさにあります。二人の身体＝武蔵の青と小次郎の赤は、黄や緑を基調とする筆跡の集積に溶け込み、絶妙な調和をみせています。初めてみたとき、この絵は展示室のかなり高いところに掛けてあったのですが、まるでステンドグラスから光が差すような神々しさを感じました。

養子でひとりっ子だった横尾さんは、幼い頃、よくひとりで絵本を描き写して遊んでいました。『宮本武蔵』の模写は、とても5歳児とは思えない驚異的な正確さが特徴です。幼い頃から横尾さんの絵はきちんとデッサンが取れていて、子どもっぽい稚拙な絵を描いたことがないそうです。《二刀流再び》をみると、子ども時代の横尾さんに欠落していた「なぐり描き」的な自由さを、90歳近くになってようやく取り戻したように思えて、感動してしまうのです。[YA]

※選出者：YA, ON



《二刀流再び》2021年、181.8×227.3cm、油彩・布

《W Wonderland》1973/1995年

過去の自作をしばしば作品に引用する横尾さんですが、それが最も過激にあらわれているのが、この《W Wonderland》かもしれません。

始まりは「第10回現代日本美術展」に出品された《Wonderland》(1971年)。南国の楽園をモチーフにした架空のユートピアのポスターです。その後、《Wonderland》の画面を8つに分割して拡大し、別の自作ポスターから引用した波や虹、軽業師などのイメージを重ね合わせた版画作品《Red Wonderland》《Blue Wonderland》(1973年)が登場。さらに、両者の画面をシャッフルし、パズルのように組み換えたのが《W Wonderland》(1995年)です。

ここでは新たに、横尾さんが少年時代に夢中になった物語の挿絵のイメージが加えられ、それらは翌年《少年時代A》《少年時代B》という独立した版画作品になっています。

過剰ともいえるイメージが幾層にも複雑に重なり合った《W Wonderland》。とんでもなく錯綜しているように見えて、なぜかビシッと決まっているこの絶妙なレイアウトが、やたらとカッコイイのです。[HY]

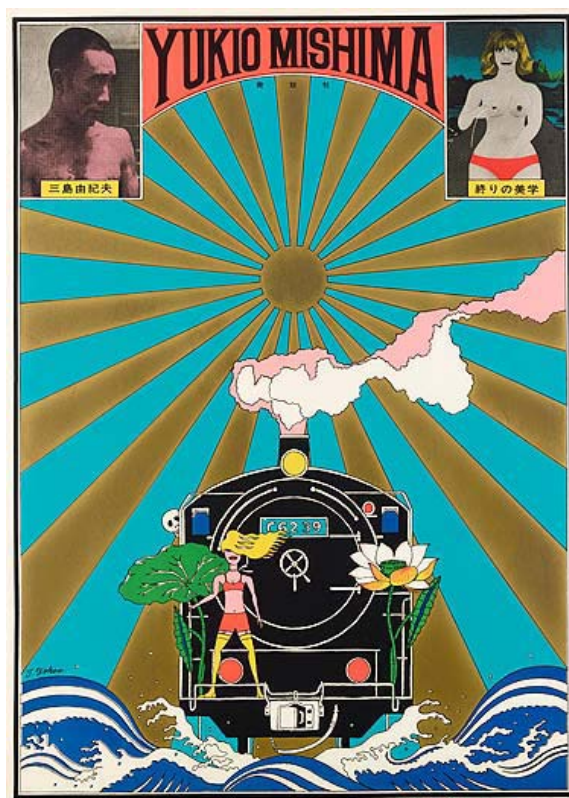


《W Wonderland》1973 / 1995年
206.0×292.0cm、シルクスクリーン・紙

《終りの美学(発狂社)》1966年

三島由紀夫、ピンクガール、旭日旗と常連モチーフが満載ながら、赤ではなく青を基調としている上に要素が限られていて、横尾作品にしては控えめ(?)なところが逆に気になるポスターです。ビニール製の人形のような俗っぽい女性が汽車の先頭を陣取り極楽浄土の蓮の葉をつかんでいるというのも可笑しくて、なんかいいなあと思ってしまうのです。[ON]

《終りの美学(発狂社)》1966年
102.6×73.9cm、シルクスクリーン・紙



《第六回東京国際版画ビエンナーレ展(東京国立近代美術館)》1968年

いわゆる版画コンクールのポスターですが、グランプリを受賞した作品と比べても決して見劣りしないと評価され、版画 vs 印刷、純粋美術 vs 商業美術の論争を巻き起こしました。上質な紙ではなく新聞用紙に刷られ、本来は断裁されるはずの周囲の印刷指示もわざと残されています。紙に版を刷るという意味において、「版画」も「印刷」も本質的には変わらないことが強調されており、デザイナー(商業美術家)だった横尾さんが、版画家(純粋美術家)たちを挑発しているようでもあります。

この頃横尾さんは、美術界がせまい世界に閉じこもっていると感じ、広く大衆にアプローチできるグラフィック・デザインの方に、より可能性を感じていました。そんな横尾さんが、やがて1980年代初めに画家宣言を行います。一体どんな心境の変化があったのでしょうか? 非常に興味深い問題です。[YA]



《第六回東京国際版画ビエンナーレ展(東京国立近代美術館)》
1968年、108.0×76.6cm、オフセット・紙

《文楽 椿説弓張月(国立劇場)》1971年

1960年代の横尾さんといえば、アングラ演劇との関連が思い浮かびます。1969年、三島由紀夫作・演出の歌舞伎「椿説弓張月」のポスターを依頼され、三島さんの口利きがなければ国立劇場のポスターなどできないので、とてもうれしかったと語っています。

三島の衝撃的な死の翌年、1971年に、今度は文楽「椿説弓張月」のポスターをつくります。以前のにぎやかさとは打って変わって、歌舞伎版の図柄が透けて見える、シンプルなつくりになっています。

この作品は、横尾さん自身が「真っ暗な海の波間から三島さんの切腹を連想させる血が飛び散っている絵」と述べるように、三島の自決を彷彿とさせます。そのことに気がつくと、にわかに鮮烈で劇的なデザインに見えてきます。

同じ波は、本展に出品されている他の作品のどこかにも、登場します。(探してみてください。)[SY]
※選出者：ON, SY



《文楽 椿説弓張月(国立劇場)》1971年
102.0×72.8cm、シルクスクリーン・紙

《Milano:5(西武百貨店)》1980年

西武百貨店が1980年に開催した、ミラノを代表するデザイナー5名(ジャンフランコ・フェレ、マリウッチャ・マンデリ [クリツィア]、オッタヴィオ・ミッソーニ、三宅一生、ジャンニ・ヴェルサーチ)によるファッションショーのポスター。横尾さんはパンフレットやチケット、雑誌広告などのアート・ディレクションを手がけました。

背景の色彩の滲みや手書きのタイポグラフィなど、手仕事の痕跡が残るデザインが新鮮で、この1年後にデザイナーから画家へと転向する気配を感じさせます。その瑞々しい原稿もあわせて展示します。

画面右の女性モデルの胸に巻かれているタオルは、本来トリミングされるべきもの。デザインに忍び込ませた、ちょっとした違和感が目を惹きつけます。[HM]



《Milano:5(西武百貨店)》1980年
103.0×72.8cm、オフセット・紙

横尾忠則現代美術館ポスター編

《横尾忠則現代美術館(横尾忠則現代美術館)》 2012年

当館の開館告知ポスター。なのに、祝祭感より不安を呼び起こします。

一來場者としてオープニングセレモニーに訪れた時は、美術館の懐の深さに感激するとともに、これから大変だろうなあと他人事のように呑気に考えていました。[HM]

※選出者：HY, HM



《横尾忠則現代美術館(横尾忠則現代美術館)》 2012年
103.0×72.8cm、オフセット・紙

出品点数

- 2階「絵画・版画編」：49点（「タマ、帰っておいで」シリーズは10点を選出）
1人10点選出。複数票獲得作品は8点。
- 3階「グラフィックデザイン編」：33点
ポスター形式の版画作品、オリジナルポスターに加工した作品を含む。
1人6点選出（5点一組の作品は1点とした）。複数票獲得作品は1点。
- 4階「横尾忠則現代美術館ポスター編」：13点
1人3点選出。複数票獲得作品は2点。

合計：95点。ほかに関連資料数点展示

関連イベント

公開座談会「学芸員、推しを語る 2」

■ 本展の作品を選出した学芸員5名が、推し作品への思い入れや横尾さんとのエピソード、展覧会の裏側などを語ります。

出 演 モデレーター：山崎均氏（西脇市岡之山美術館 館長）
兵庫県立美術館学芸員：ON、HY
横尾忠則現代美術館学芸員：YA、HM、SY
日 時 11月21日（土） 14:00—15:30
会 場 当館オープンスタジオ
参 加 費 無料



ギャラリーツアー

■ 担当学芸員と会場を巡りながら作品を鑑賞します

講 師 当館学芸員
日 時 10月3日（土）、11月7日（土）、12月13日（日）
各日14:00—15:00
集合場所 当館オープンスタジオ
参 加 費 無料、ただし要展覧会チケット（高校生以下 入場無料）

※掲載の内容は変更される場合があります

※その他のイベント情報については当館ホームページをご覧ください

基本情報

Curators in Panic 2 ～ 横尾忠則展 学芸員危機2髪？

2026年9月19日(土)ー12月27日(日)

開館時間 10:00ー18:00 ※入場は17:30まで

休館日 月曜日 ※ただし月曜日が祝休日の場合は開館し、翌平日休館

主 催 横尾忠則現代美術館([公財]兵庫県芸術文化協会)

協 力 ホテルオークラ 神戸

観覧料 一般800(600)円、大学生600(450)円、70歳以上400(300)円、高校生以下無料

※ ()内は20名以上の団体料金

※ 障がいのある方は各観覧料金(ただし、70歳以上は一般料金)の75%割引、その介護の方(1名)は無料

※ 割引を受けられる方は、証明できるものをご持参のうえ、会期中美術館窓口で入場券をお買い求めください
(障がいのある方は、障がい者手帳アプリ「ミライロID」もご利用いただけます)

兵庫県立美術館との相互割引

- ・ 兵庫県立美術館の特別展またはコレクション展のチケット半券のご提示で、当館企画展を団体割引料金でご覧いただけます
 - ・ 当館企画展のチケット半券のご提示で、兵庫県立美術館の特別展またはコレクション展を団体割引料金でご覧いただけます
- ※会期中のチケット半券に限り有効です

お問合せ

横尾忠則現代美術館

〒657-0837 兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30

tel. 078-855-5607(総合案内) fax. 078-806-3888

学芸担当: 平林恵(hirabayashi_megumi@ytmoca.jp)

広報担当: 早水千尋(hayamizu_chihiro@ytmoca.jp)

※画像データは当館ウェブサイトのプレス専用ページ(<https://ytmoca.jp/press>)からお申し込みいただけます
ウェブサイトに掲載されていない画像は、上記連絡先までご請求ください